

山形・明成寺遺跡



(酒田)

- 1 所在地 山形県酒田市大字豊川字明成寺
- 2 調査期間 一九七九年(昭54)六月～七月
- 3 発掘機関 山形県教育委員会
- 4 調査担当者 川崎利夫・野尻 侃
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

明成寺遺跡は、国指定史跡「城輪柵跡」の北方一・二kmに位置する。日向川・荒瀬川の合流地点より五〇〇m上流の荒瀬川左岸、旧氾濫原上に立地しており、標高一〇mを測る河間低地中の微高地である。発掘調査は、農林事業に係わる用排水路の部分に限定して行った。調査の結果、井戸跡一基、性格不明の落ち込みなどの遺構が検出されている。

木簡は、発掘区の北西部SX二とした長径一一〇cm、短径六〇cm、深さ一五cmの不整楕円形の落ち込みから三点重なった状態で検出されている。その他、この近くから同じ材質の残片が三点出土しているが、墨書は認められない。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「各以衣祴盛衆妙華供養他方十万億佛即」 (162)×15×1 061
- (2) 「以食時還到本飲食經行舍利弗極樂國」 (162)×14×1 061
- (3) 「主成就如是德嚴」 (功説カ)〔莊説カ〕 (177)×13×1 061

三点の木簡は、いずれも下端が欠損しているが、上部は山型に削っている。釈文の内容は、「阿弥陀經」巻上の連続した三行にあたる。本木簡の性格は、形態ともかね合せ、経文を墨書した柿経と考えられる。木簡の時期は、木簡および木製品以外の伴出遺物がないため明らかでない。

9 関係文献

- 山形県教育委員会『若王寺遺跡・明成寺遺跡・三田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財報告書第32集 一九八〇年
- 長橋 至「酒田市明成寺遺跡出土笹塔婆もしくは柿経」『庄内考古学』第17号 一九八〇年 (佐藤庄一)